

か ず ら 利 用 の 手 引 き

平成8年度

伝統的工芸品等原材料生産安定事業

徳 島 県 農 山 村 振 興 課



キウイのつる



はじめに

かずらは、古くから建築や織物、縄、籠等実用品の材料として、主として山間地域で広く利用されてきたが、近年になっては、「かずら橋」を除いては、伝統的な用途に利用されることがほとんどなくなっている。

しかし、一方では、ネイチャークラフトやアートフラワーなどの材料として、かずらの持つ自然の素材の味わいが見直されつつある。

また、かずらの一部には、キウイのつるのように花材として利用されている例もあり、アケビやサルナシ等のつるの利用方法が確立されれば、果実の利用とあわせて新たな特産品としての需要が期待できる。

このような状況を踏まえて、この手引きにおいては、本県のかずらの生産から利用までの現状を明らかにし、新たな需要の可能性を探ったものであり、特産品の生産を通じた農山村地域の振興の一助になればと願うものである。

なお、本手引きを作成するに当たって多くの方々から、貴重なお話や写真の提供を頂いた。巻末の氏名掲載により感謝の意を表したい。

平成9年3月



(写真) 関口 律子氏より

かずら利用の手引き

目 次

はじめに

1	かずらの利用状況	1
	（1）クラフトへの利用	1
	（2）花材としての利用	2
	（3）伝統的な利用	2
2	かずらの生産・流通状況	3
	（1）生産状況	3
	（2）流通状況	3
3	今後の見通し	4
	（1）需要の見通し	4
	（2）供給の見通し	4
4	今後の対応	4
5	利用されるかずらの種類等	5

1 かずらの利用状況

本県におけるかずらの利用の歴史は、縄や針金の代わりに使用する伝統的な使用方法を別とすれば、昭和 40 年代前半にかずら細工に使用されたのが始まりと考えられる。

昭和 57 年には徳島市を中心に「かずら愛好会」が発足し、毎年のように展示会が開催されている。講習会への参加者も、山村地域を中心に延 100 人以上に達し、各地に生産グループが生まれてきている。

現在のかずらの利用の状況は、(1)クラフトへの利用、(2)花材としての利用、(3)伝統的(かずら桶等)な利用、(4)薬草としての利用に大別することが出来るが、クラフトへの利用が一般的である。

(1) クラフトへの利用

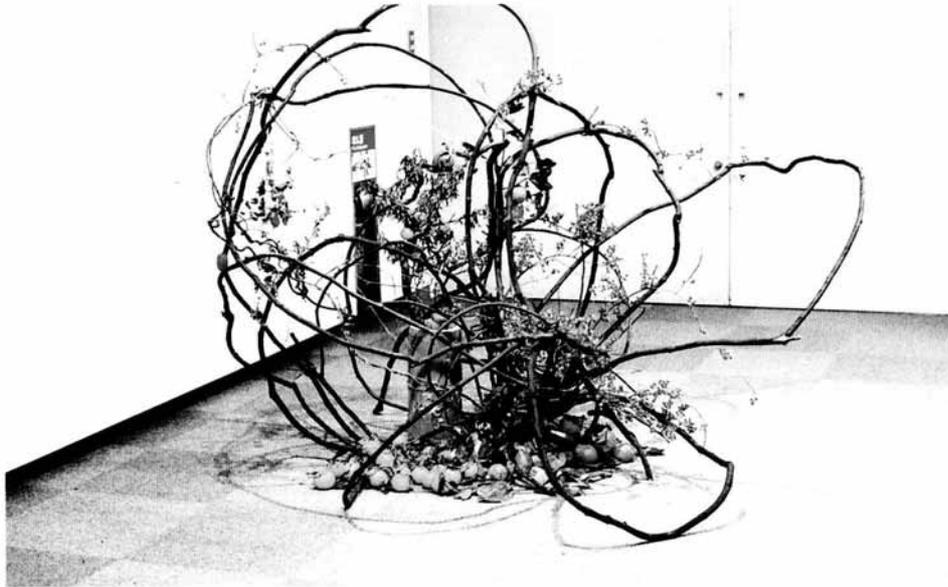
クラフトといっても、高度な伝統技能によって生産されているものはほとんど無く、いわゆる手作りの良さを生かした果物かご、小物入れ等の実用品や花かご、置物等の装飾品が趣味のグループ等によって製作されている。

これらの作品は、一部は東京方面へ販売されているが、展示会へ出品されたり、道の駅等の土産物店やしいたけフェアのようなイベント会場で販売されることが多い。



(2) 花材としての利用

花材として利用される場合は、皮付きの自然のまま使用される場合と、剥皮・漂白又は着色して使用される場合とがあるが、いずれも生け花やアートフラワー、ショーウィンドウのディスプレイ等に利用されている。



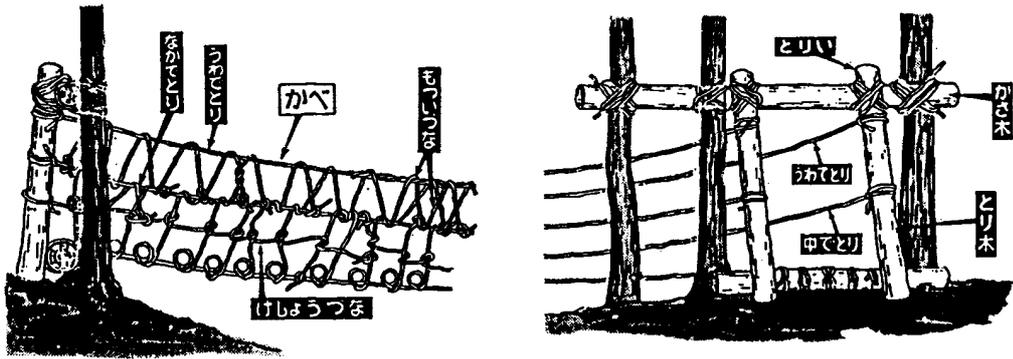
(写真) かずら愛好会より

(3) 伝統的な利用

かずらの利用としては、「祖谷のかずら橋」が有名である。これについては、使用されるかずらの量が 1,800 貫(6.75 トン)で、3年ごとに架け替えられることから需要先としては魅力的であるが、使用されるかずらの種類がシラクチかずらの 30~50 年生に限られ、使用される場所が祖谷地方に限定されているため、一般的な利用形態とはいいがたく、特殊な例として伝統の技とともに伝承に努めたいものである。



かずら橋のかけ方



(イラスト) 東祖谷山村誌より

2 かずらの生産・流通状況

自然のかずらを専門に生産する業者は無く、流通も花市場を通じて僅かにある程度で、規格もなく、価格も注文の有無によって大きく変動する。

一方、栽培されているキウイのつるは、農協や花材業者を通じて少しまとまった量が流通しており、農家の年寄りのこづかい程度にはなっている。

(1) 生産状況

徳島花市場で調査したところによると、自然のかずらの生産者は徳島市周辺に数名存在し、市場からの注文を受けてから剣山周辺に採取に出かけ、他の花材と一緒に山取りをしたものを出荷している。

1回の市への出荷量は20巻程度で、年間40巻程度が秋に出荷される。長さや太さの規格はなく、価格は1巻当たり5～6千円程度であるが、注文量以上に出荷されると暴落する。

キウイのつるは、佐那河内村や阿南市の農家が、果実を採るため剪定をした際に出るつるを花材の材料として出荷している。

出荷については、佐那河内村では平成8年には87千本を総て農協へ、阿南市においては農家から直接花材業者に出荷している。

規格は、長さ1.2m、太さは小指程度のものを30本1束にしている。価格は、1本当たり30円程度である。

(2) 流通状況

かずらを花材として扱う業者は、徳島市に花市場が2社存在し、地場需要に対応しており、徳島市と阿南市に2社存在する花材業者が、県内及び全国の花市場からの注文に応じて販売をしている。自然のかずらはそのまま販売しているが、キウイのつるは花材業者が剥皮・漂白したものが流通している。

このように流通に乗るものについては、生花や造花の販売店を通じて生け花の材料や店舗の装飾用に利用されているが、趣味のグループ等がかずら細工を作る場合は、自分で山に行き採取してくるのが一般的である。

3 今後の見通し

(1) 需要の見通し

労働時間の短縮とともに余暇時間が増大し、カルチャースクールやスポーツ施設は盛況を極めている。また、アウトドア指向の高まりや家族と過ごす時間を大切にする傾向が強くなっていることは、自動車の売上に RV（レクリエーショナル・ヴィークル）が大きなウエイトを占めるようになっていくことから容易に想像できる。

多くの人々が趣味に興じ、自然とのふれあいを求め、家族との絆を大切に、家庭に潤いとやすらぎを求める。こういった傾向は、時代のパラダイムの変換がおきているなかで現れてきたものと考えられ、この傾向は今後も一層強まるものとみられる。

このような背景から今後のかずらの需要を考えると、実用品の材料としては期待しにくいですが、かずら細工やアートフラワー等趣味や装飾品の材料としての需要は高まるものと考えられる。

(2) 供給の見通し

自然のかずらのうち、里山に生えるクズ、フジ、ミツバアケビ、オオツヅラフジなどは資源量も豊富で比較的入手しやすいが、サルナシ、ヤマブドウは標高 1,000m 近い深山に生えるため、簡単に入手することが出来ない。

いずれも既存の流通にはほとんど乗らないが、山村・都市の交流の中でルートを開拓することにより、安定供給することも可能となる。その際は、山菜や木の実と併用することにより、特産品として産地化できる可能性が高まるものと考えられる。

4 今後の対応

今回の調査で、ある程度需要があることが分かったので、今後は需要者の要望に合わせて

- ① 注文に即応して供給する
- ② 価格を安定させる
- ③ 長さや太さについて規格を作る
- ④ 採取後に水洗、湯通し、選別をする

といった対応をしながら、体験教室や実演販売等を開催し、かずら細工人口の増加を図り、需要の掘り起こしに努める必要がある。

同時に、森林組合等が窓口となって注文を受けたり、かずらの取りまとめをするなど、山村側で供給体制を整える必要がある。

5 利用されるかずらの種類等

自然のかずらで利用できるものは 20 種類程度あるが、ここでは代表的なものを取り上げて解説し、その他のものについては簡易な表を巻末に添付する。

○ミツバアケビ（あけび科）

山野に普通にあるつる性の落葉木本。

葉は、長い葉柄があり小葉は3枚。

分布は日本全国の暖帯、温帯。

つるの特徴は、弾力があって強度も高く籠を編むのに最適のつるである。

新芽は山菜として食用に、果実は果肉は生食に、果皮はてんぷら等の料理の材料となる。

また、つるは漢方薬として利尿、鎮痛、排膿等に利用できる。



○サルナシ（またたび科）

シラクチカズラともよばれ、山林中に普通に生える落葉藤本。他樹について高く登り、幹は直径 15 センチメートルに達することがある。

分布は日本全国の暖帯上部から温帯。

つるの特徴は、丈夫で腐りにくいので筏を縛るのに用い、長くて丈夫なのでかずら橋を作るのに用いる。

果実はキウイフルーツを小さくしたようなもので、甘酸っぱく食用や果実酒の材料になる。



○フジ（まめ科）

山林中に他木に巻き付く落葉藤本。

つるは右巻。

分布は本州・四国・九州の温帯、暖帯。

つるの特徴は、丈夫で弾力に富んでおり、長く伸びたものは籠作りに、太いものはインテリア用の椅子や装飾用に用いることが出来る。

同属のヤマフジも同様に用いることが出来る。つるは左巻。



○クズ（まめ科）

林の縁や土手に繁茂するつる性の多年生草本。秋の七草の一つ。

分布は日本全国の暖帯。

つるの特徴は、太くなったものはしなやかで編みや巻に適している。

根から取れるでんぷんをクズ餅にする。

根は葛根湯として解熱、鎮痛等の薬になる。



○オオツツラフジ（つづらふじ科）

山地の林内にはえるつる性落葉低木。

茎は硬く緑色、長く伸び他に巻き付く。

分布は本州・四国・九州の暖帯。

つるの特徴は、若いうちは曲がり少なく1本を長く取れる。細くても弾力があり、太くても柔らかく扱いやすい。漢方薬として神経痛、リュウマチ等に効く。



かずら一覽表

名 称	特 徴	用 途	備 考
ア ケ ビ (あけび科)	落葉, 掌状複葉で小葉は5枚 つるは強く弾力性に富む	果物籠, バスケット, 小物 入れ等	果実は生食, 新芽は山菜 として利用
ミツバアケビ (あけび科)	落葉, 掌状複葉で小葉は3枚 つるは強く弾力性に富む	果物籠, バスケット, 小物 入れ等	果実は生食, 新芽は山菜 として利用 栽培に適する
ム ベ (あけび科)	常緑, 掌状複葉で小葉は5~ 7枚 つるは緑色, 強く弾力性に富	果物籠, バスケット, 小物 入れ等	果実は生食, 観葉植物と して栽培する
サルナシ (またたび科)	落葉, 別名シラクチカズラ つるは強靱, 腐りにくい	筏を縛る, かずら橋を作る, 骨材 生け花, 杖	果実は生食, ジャム, 果 実酒に 新芽は茶に適する
マタタビ (またたび科)	落葉, 葉の表面が白色のもの がある つるは骨材に適する	籠, 装飾品等の骨組みに	果実は果実酒や酢漬に, 新芽は茶に適する
フ ジ (まめ科)	落葉, 羽状複葉, 花が紫色で 美しい つるは丈夫で弾力がある	細いものは籠づくり, 太い ものはインテリア用の椅子, 装飾品	つるは右巻き
ヤマフジ (まめ科)	落葉, 羽状複葉, 花が紫色で 美しい つるは丈夫で弾力がある	細いものは籠づくり, 太い ものはインテリア用の椅子, 装飾品	つるは左巻き, 葉がやや 細い
ク ズ (まめ科)	つる性の多年草, 小葉は3枚 太いつるはしなやか	編みや巻きに適する	根から澱粉が取れる, ク ズ餅などにする
オオツツラフジ (つづらふじ科)	落葉つる低木, 常緑樹の中, 若いつるは緑色, 曲がりがない	柔らかく, 扱いやすいので 様々に利用できる	つるは右巻き これで作る籠をツツラと 呼ぶ
アオツツラフジ (つづらふじ科)	落葉つる低木, 葉が小さく落 葉しないものもある	柔らかく, 扱いやすいので 様々に利用できる	
ヤマブドウ (ぶどう科)	大型落葉つる植物, 葉は大きい つるは節が太くジグザグ	太いものは骨組み, 細いも のは曲げやリースに適する	果実は食用, 加工用に利 用できる
ノブドウ (ぶどう科)	つる性の多年草, 葉は小型 つるは節が太くジグザグ	太いものは骨組み, 細いも のは曲げやリースに適する	
ツ タ (ぶどう科)	落葉性つる植物, 別名ナツツタ 紅葉が美しい	リースや装飾用に適する	
キツタ (うこぎ科)	常緑つる性の木本, 別名フユ ツタ つるは不定気根が多い	リースや装飾用に適する	
サネカズラ (もくれん科)	常緑の藤本, 別名ビナンカズラ	装飾用	果実は五味子に代用し, 強壯薬とする
テイカカズラ (きょうちくとう科)	常緑のつる性木本, つるから 不定根がでる	装飾用	
スイカズラ (すいかずら科)	半常緑のつる性低木, 別名ニ ンドウ, つるは赤褐色	装飾用	葉は薬用
ヘクソカズラ (あかね科)	つる性の多年草, 名前の由来 は全体に悪臭があるため	装飾用	
サルトリイバラ (ゆり科)	木質の低木, つるにはバラの とげがある	生け花, 装飾用	葉は柏餅を包むのに用いる

(取材協力)

徳島かずら愛好会 山野 英子氏
徳島花市場 笹田 喜也氏
東祖谷山村 日浦 義時氏
東祖谷山村 市岡日出夫氏
東祖谷山村商工会 宮西 智氏
徳島市 フラワーショップ慶
徳島市 中原 健一氏
阿南市 安村花材
J A阿南市加茂谷支所
J A徳島市佐那河内支所
上勝町役場 山部 倍生氏
上勝町 中内氏
J A勝浦郡上勝支所
鴨島町 鈴田電機商会
エコロジーの森を創る会 森本 康滋氏

(写真撮影協力)

貞光町ゆうゆう館
山城町林業総合センター
山城町歩危茶屋

(写真提供)

徳島市 徳島かずら愛好会
池田町 関口 律子氏

(参考文献)

- 1 あけびを編む 谷川栄子著 農文協
- 2 かずら 徳島かずら愛好会
- 3 木の名の由来 林業技術協会
- 4 林業技術者のための特用樹の知識 林業技術協会
- 5 これからの山菜経営 杉浦孝蔵著 林業普及双書 86
- 6 木の実栽培全科 大沢章著 農文協
- 7 山菜栽培全科 大沢章著 農文協
- 8 山菜 佐竹秀雄 大沢章共著 農文協
- 9 特産案内 120 種 草川俊 大沢章 他著 農文協
- 10 真の健康をとりもどすための民間薬草療法 監修 村上光太郎 法研
- 11 原色牧野植物大図鑑 北隆社
- 12 原色牧野植物大図鑑続編 北隆社
- 13 原色日本植物図鑑木本編 (I) 保育社
- 14 原色日本植物図鑑木本編 (II) 保育社
- 15 東祖谷山村誌



アケビの花